

# 経営比較分析表（平成30年度決算）

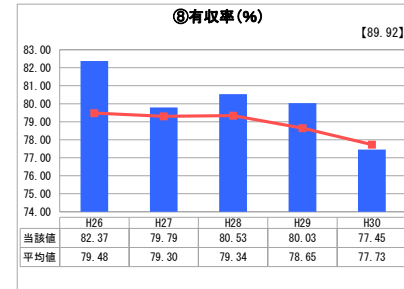
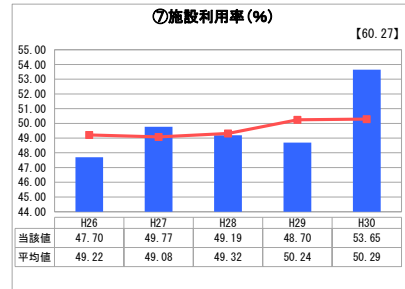
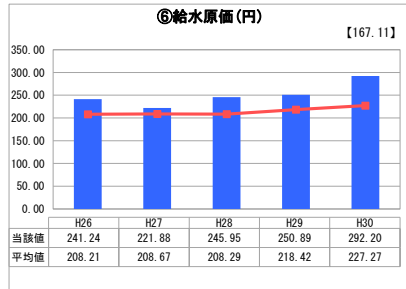
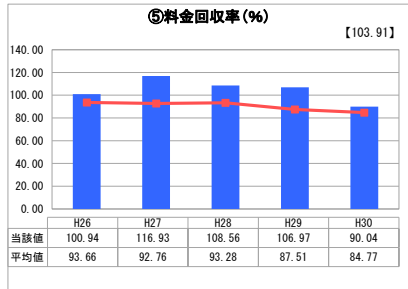
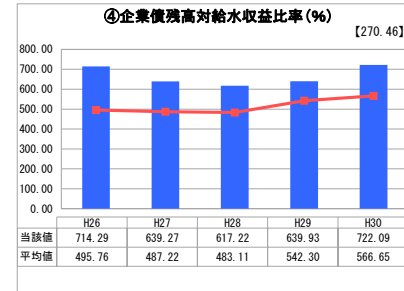
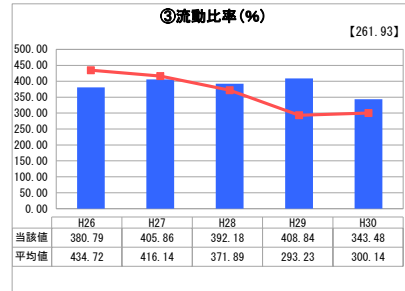
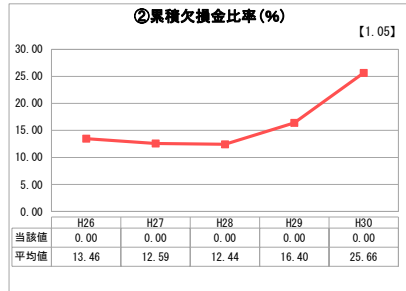
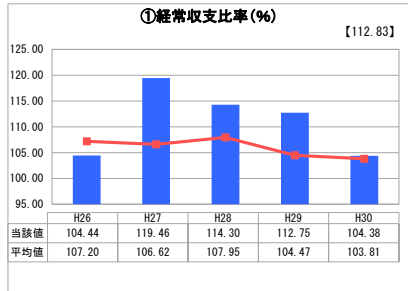
岩手県 平泉町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	48.79	73.52	4,795	

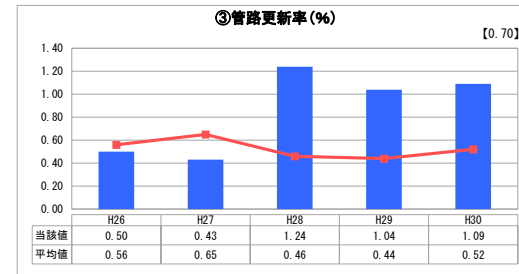
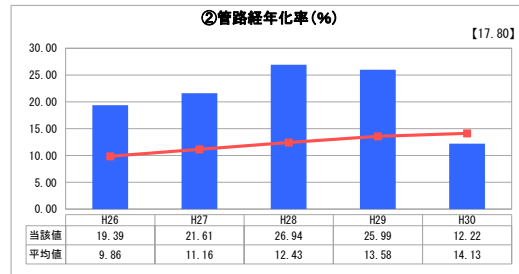
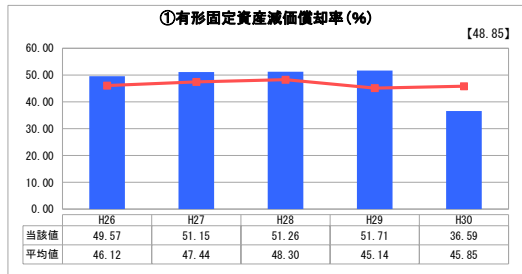
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
7,643	63.39	120.57
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,223	27.43	299.78

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	平成30年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

- 水道事業は昭和40年の一部供用開始から半世紀が経過しています。安全安心な水道水の安定供給を念頭において、経済性・効率性を重視し経常経費の節減、建設改良事業の精査などを行い、健全な事業運営に努めています。
- なお、平成30年度から簡易水道事業特別会計と会計統合しています。
- ①経常収支比率：給水収益等による収入で水道を運営するために必要な費用は賚られています。
- ②累積欠損金比率：単年度収支は黒字であり、累積欠損金はありません。
- ③流動比率：1年以内に支払うべき債務に対して支払に充てるための現金預金は不足していません。
- ④企業債残高対給水収益比率：建設改良工事費用の財源のほとんどは企業債の借入で賚られているため類似団体の平均値より高くなっています。企業債の償還計画を立て事業を実施しています。
- ⑤料金回収率：給水に係る費用は給水収益のほか繰出基準に定める繰出金等で賚られています。
- ⑥給水原価：給水人口の減少等により有収水量が減少したため給水原価は上がっています。
- ⑦施設利用率：施設利用率は50%を上回っています。簡易水道区域の施設利用率の高いためです。なお、年間の最大配水量での施設利用率は約74.2%です。
- ⑧有収率：昨年度の80%を下回っています。簡易水道区域で漏水が多いためです。引き続き、漏水調査や夜間の流量測定を実施し有収率の向上に取り組みます。

### 2. 老朽化の状況について

- 当町の水道事業における拡張事業は完了しており、今後は老朽化する施設の更新等を計画して行いきます。
- ①有形固定資産減価償却率：簡易水道区域の供用開始が上水道区域より遅いため、昨年度より有形固定資産減価償却累計額が減少しています。
- ②管路経年化率：簡易水道区域の供用開始が上水道区域より遅いため、昨年度より経年化した管路が減少しています。
- ③管路更新率：管路更新は建設計画に基づき実施していますが、老朽管を一度に更新することは財政的に難しいため、布設替えまでは修繕で対応しています。

### 全体総括

- 水道は生活に不可欠で重要なライフラインであり、引き続き健全な経営の維持に努めます。
- 水道施設更新等の財源とするため、収益につながるような有収率向上を目指します。また、水道料金の見直しを検討していきます。
- 老朽化する施設の更新や施設の耐震化等の建設事業を計画的に実施していきます。